問 地域振興課 28-6014

女性が輝くまちであるために

時代の流れとともに女性の社会進出が進み、さまざまなライフイベントを経ながら、多様な場で活躍する女性が増えています。

さらに、今年の6月には、女性が働きやすい環境づくりを企業に求める「女性活躍推進法」が一部改正されるなど、働く女性の個性や能力を生かそうとする動きが社会全体で加速しています。市においては、第2次四国中央市男女共同参画計画の基本理念である「男女(ひと)がともに認め合い、高め合い、明日をひらくまちづくり」を合言葉に、性別に関係なく個性を認め合い、意識と能力を高め合い、男女(ひと)が輝くまちづくりに向けた施策を展開させています。

現在、四国中央市には、家庭で、職場で、また地域活動の担い手として、さまざまな場面で活躍している女性がたくさんいます。

今号では、そんな輝く女性にこれまでの経験や今の思いをインタビュー。それぞれの「女性のチカラ」を紹介し、女性が自分らしいスタイルで輝き続けることができるまちであるために、大切なことを考えます。

Interview 1

「市政に女性の声を伝えて」
友人の言葉をきっかけに政治の世界へ。

四国中央市議会議長（本市初の女性議長）

石津　千代子さん

Chiyoko Ishizu

友人の言葉に背を押され

「市政に女性の声を伝えて」友人の言葉が市議会議員に立候補するきっかけとなりました。平成10年、当時の川之江市には女性の市議会議員がおらず、女性の意見をダイレクトに市政に届けるのは、なかなか難しい時代でした。誰かのお手伝いができて、お役に立てるのならという思いが強かったです。

女性政治家の割合は、先進国において、日本は最下位となっています。政治の世界は、まだまだ男性社会であり女性が少数派であることは確かです。しかし、嘆いてばかりでは、いつまで経っても女性の声は届きません。政治の世界に女性が多くなれば、女性の特性・視点で身近な課題に気付くことができます。女性をはじめ、これまで政治の世界で少数派だった人たちの声は、多様さが尊重される未来を創っていくうえで、きっとかけがえのないものです。

議会改革は急ピッチ

私たち四国中央市議会は、2019年度の議会改革度ランキングで全国55位、四国では1位となりました。これは積極的な情報公開、住民参画の機会拡充などが高く評価されたもので、市議会としては、今後もより一層、市民に信頼される、開かれた議会を目指して改革に取り組んで参ります。また、昨年は初の試みとなる女性議会を開催したところ、各種団体から選出の女性議員の皆さまから、女性ならではの目線で質問や提言をいただきました。生活に密着した身近なご意見は、きっとさまざまな改善につながっていくものと思います。

みんなが輝くまちへ

四国中央市には、さまざまな分野で活躍されている女性がたくさんいます。女性がいきいきと輝き、活躍できる社会は、きっと男性も輝ける社会です。性別にかかわらず、頑張っている人、輝こうとしている人をしっかり応援できるような、そんなまちづくりを進めていきましょう。

Interview 2

子どものころから家族総出で
みかん狩り。山が好き。人が好き。

寺尾果樹園

寺尾　つむぎさん

Tumugi Terao

農業の手伝いが好きでした

子どものころから、農業の手伝いが好きでした。収穫時期には、いとこも集まって、家族総出でみかん狩り。家族で山に行くのが当たり前の生活でした。大学は、農業の専門知識を学ぶため農学部へ進学しました。農学部ではマネジメントコースを選択し、販路開拓などを学んだことが、マルシェの運営などにも役立っていると思います。

卒業後は、実家の「寺尾果樹園」で加工品の商品開発や販路拡大に携わっています。私が加工品に力を入れる理由は、近年、生の柑橘を食べる方がだんだん少なくなってきたことにあります。違う形で柑橘そのままの味を楽しんいただくため、素材にこだわったジュース・マーマレード・フルーツソースの商品開発に励んでいます。マルシェにも定期的に出店していますが、マルシェの魅力は、お客様と直接コミュニケーションをとりながら販売できることです。また、お客様にとっても、作り手が見えることで安心して召し上がっていただけるのではないでしょうか。

前を向けば仲間ができる

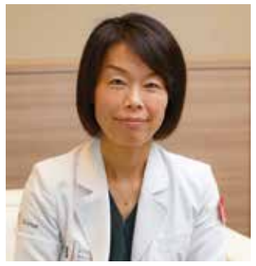
農業を通じて、多くの女性農家の方とのネットワークができました。みなさん、とても活発で前を向いて仕事をされていますし、いろいろな意見が聞け、困った時には相談にのってくれます。私の仕事は家業のため、オンもオフもずっと家族と一緒です。どうしても情報や考え方も偏りがちになってしまうので、仲間と会って話すことが、ストレス解消にもなるし、自分の軸をフラットに戻すための良い刺激にもなっています。

育ててくれた地域に感謝

農業の世界は後継者問題に悩まされていると聞きます。時代が変わっていっても、「天満みかん」が守られて、受け継がれていって欲しいし、微力ながら、私もその流れの中に居たいと思っています。

四国中央市は、人が温かいまちです。新しくチャレンジすることを、地域が支えてくれます。そして、楽しいことにたくさん出会えるまちですよ！

Interview 3



信じる仲間と共に前へ。
不可能を可能に変えるために。

社会医療法人石川記念会 理事長 / 日経WOMAN「ウーマンオブザイヤー 2020」受賞

石川　賀代さん

Kayo Ishikawa

父の背を追いかけて

幼いころから、地域医療に貢献する父親の姿を見て育ち、医師である父親と対等に向き合える関係性になりたいと考えていました。これが私が医師を目指したきっかけです。その後、医師として経験を積んで帰郷し、父が経営する石川病院に入職してからは、新病院の建設、病院改革などに奔走してきました。

仲間を信じて

病院経営にあたっては、愛媛県の東の端にあるこの地域において、できない理由を探すのではなく、固定観念に捉われずに今できることや、今ある資源を活用して不可能を可能に変える方法を考え、未来を信じて仲間と共に頑張ってきました。理念を掲げ、法人が目指す方向性やイメージを可視化して共有することにより、共に夢を叶える同志に恵まれました。また、どこにいても響きあう仲間が存在し、そこにつながることを実感した10年でした。

組織が大きくなっていく中で心掛けていることは、まず現場を知ることです。自分の目や肌で直接感じる現場感覚を大切にしています。また、常に張りつめていると疲れてしまうので、時にはきれいな空気や自然、日本にしかない文化や四季を感じ、感覚をリセットすることを大切にしています。

女性の強みで社会に貢献

四国中央市は産業があり、交通の要所でもあり、利便性の高い条件が揃っています。子育て世代の方たちが働きながら子育てをすることができ、またキャリアを重ねたい方、セカンドキャリアの方にとっても、さまざまな働き方に対応する雇用があります。

女性には、いくつかの持ち場を掛け持ちでこなせる特性があります。いくつになっても互いに社会に貢献し、四国中央市のより良い未来を共に作っていけたらいいですね。

女性の活躍を応援する取り組みが進められています

女性の視点を市政に反映

女性議会

令和元年８月６日（火）、県下初となる女性議会が開催されました。これは、本市在住の女性の方に市政に対する提言や質問を行う機会を提供し、女性の視点による意見を今後の市政運営に反映させることを目的に開催されたもので、22人の女性議員が参加した女性議会では、「女性の視点から考える防災活動について」など、議会、行政がともに重く受け止めるべき身近で切実な提言をいただきました。

管理職（課長級以上）の女性比率は、県下11市中２番目

女性職員の登用状況

本市職員の管理職（課長級以上）の女性比率は、県下11市中２番目（13.1%）、一般行政職に限れば、トップ（15.8%）となっています。（平成31年４月１日現在）※県下11市の平均値は8.0%

自身のキャリアデザインを考えるきっかけに

高校生セミナー

個人の生き方や価値観が多様化している現代社会では、家庭・学校・職場・地域などあらゆる分野で「男は仕事、女は家庭を守るべき」 といった固定観念にとらわれず、多様な生き方が尊重されます。これから社会に出ていく高校生を対象に、男女共同参画とは？ワーク・ライフ・バランスとは？女性が活躍する社会とは？など、さまざまな観点からの講義を聞いてもらい、自身のキャリアデザインについて考える啓発セミナーを実施しています。

男女共同参画推進啓発イベントを準備しています

男女共同参画推進ネットワーク会議 TOMONI（ともに）

男女共同参画社会の実現を目指す豊かで住みよいまちづくり、広い視野で人との違いを認め合うまちづくり、個人が自分らしくポジティブに行動できるまちづくりを目的とし、令和元年５月１日に男女共同参画推進ネットワーク会議「TOMONI」が設立されました。男女共同参画推進啓発イベントの実施に向け、現在、準備を進めています。

「ひめボス」とは、愛媛県版イクボスのこと

愛媛県版イクボス「ひめボス宣言事業所」

変える。変わる。愛媛ワークスタイル
愛媛県版イクボス
ひめボス

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のことを指します（対象は男性管理職に限らず、今後さらに増えるであろう女性管理職も含みます）。

６月30日現在、本市からは28社が登録しています。

女性一人ひとりのチカラが発揮できるまちでありたい

能力を持っている人がその能力を発揮するためには、チームが必要だし、気の許せるグループが仲間として存在する必要がある。あるママになったばかりの女性が、赤ん坊に振り回されて、へとへとになって、「私は世の中の全てのお母さんを文句なく尊敬するよ」と愚痴をこぼしていたことがあった。でも日が経つと、彼女もだんだんとそのお母さんになっていった。仕事と家庭との両立に悩む女性が多いといわれる中、誰もが辛抱し、努力し、支えあっているに違いない。

一人ひとりの頑張りを支えていこう。そんな風が流れ、香りが漂うまちであれたらいいですね。

四国中央市長　篠原　実

今も昔も、これからも、きっと変わらないものがあります

井川　ミユキさん

茶道裏千家名誉師範
故井川伊勢吉（大王製紙創業社長）夫人

Profile

大正５年生まれ 数え年105歳（満104歳）
故井川伊勢吉（大王製紙創業社長）夫人
茶道においては、裏千家名誉師範
淡交会三島支部幹事長・参与などを歴任
愛媛県文化協会地域功労賞を受賞

―これまでの人生の中で大変だった思い出は？―

しんどい中にも楽しいことをみつけて

結婚したころは大所帯の上、主人は出張で留守が多かったこともあり、家のことは私がしていました。子どもは八人いましたが、子どもを産んで三日後にはもう仕事をしていました。そのうち戦争が始まって男手がいなくなって、会社の抄（すき）場を女の人だけで回したり、大変なときもありましたが、辛いと思ったことはありません。工場におにぎりを作って持っていったり、70本も巻き寿司を作って会社の人達とお花見に行ったりと、しんどい中でも楽しいことを探しながら仕事をしてこれたのが良かったと思います。

―70年近く続けてこられている茶道とはどんなものですか？―

なんでも「根気よく続けること」

たまたま家の前を通りかかったお茶の先生に誘われたのが本格的に茶道を習い始めたきっかけです。茶道は自分の心の拠（よ）り所のようなもので、好きだったからこそ、これだけ長く続けて来られたと思います。

家のことや仕事の手伝いでどんなに忙しくても、子ども達を寝かしつけてから時間を作って、お点前（てまえ）のけいこをしていました。ひとつのことをずっと続ける、というのは大変なことですが、仕事でもお茶でも、「根気よく続ける」ことが大切なこと。

数え年104歳のお祝い

―今年９月に１０５歳を迎えられます―

～元気の秘訣～

できるだけ外出するようにしています。この近辺はどこからでも海が見えるので、昔命名したチップ船が来ていないか見に行くのが楽しみです。以前は工場でお茶席を設けて、社員と共にお茶菓子を食べるのが楽しみの場となっていました。

大王製紙川之江工場竣工式にて

川之江工場がもう一度稼働したらと思っていたので、徐々に形になっていく様子を見るのはうれしかったです。竣工式でのテープカットは良い思い出です。